

平成22年度第2回
練馬区放課後子どもプラン運営委員会
会議録

平成23年 3 月 9 日

- 座 長 夜遅いところどうもありがとうございます。お疲れ様です。ただいまから平成 22 年度第 2 回練馬区放課後子どもプラン運営委員会を始めたいと思います。まだ出席されていない方もございますので、事務局の方から委員の出席状況をご報告していただければと思います。よろしくお願いいたします。
- 事務局 委員の出席状況報告。
- 座 長 どうもありがとうございます。最初に配布資料の確認をお願いしたいと思います。
- 事務局 配布資料について報告。
- 座 長 ありがとうございます。次第の方では単純に平成 22 年度取組状況、23 年度事業実施計画、それから、その他となっておりますが、資料に従いまして順次進めていきたいと思います。まず、次第に従いまして、平成 22 年度取組状況と平成 23 年度実施計画についてですけれども、資料含めて事務局のほうからご説明いただきたいと思います。その後皆様からご意見をお伺いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
- 事務局 『「第二次練馬区放課後子どもプラン」の平成 22 年度の取組状況について』の報告。
- 事務局 「資料 1-3 ひろば事業スタッフへの研修について」報告。
- 事務局 「資料 1-4 学童クラブ事業とひろば事業の連携の進捗について」の報告。
- 事務局 「資料 1-5 学校応援団連携状況アンケート結果について」の報告。
- 事務局 「資料 1-6 学童クラブ連携状況アンケート結果について」の報告。
- 座 長 続いてお願いいたします。資料 1 についてでしょうか。
- 事務局 資料 1 に基づいて、平成 23 年度の計画について説明。
- 座 長 はい、ありがとうございます。ただいま事務局の方で課長さんが、参

加されましたが、特によろしいですか？

- 事務局 生涯学習課長でございます。本日予定よりも議会の方が延びてしまいまして大変遅くなりましたことをお詫び申し上げます。大変失礼いたしました。

- 座 長 はい、どうも。資料 1 から 1-6 まで続けてずっと説明していただきました。この中でこれから皆さんから色々ご意見をいただきたいと思います。特に最初にご意見をいただきたい、したい方挙手をお願いいたします。皆さんいかがですか。みなさんにぜひご意見をいただければと思いますので、最終的にはみなさん全員に一言ずつでもお願いしたいと思います。よろしいですか。

- 委 員 本校には学童クラブが二つあるのですが、どうしても学童クラブが中心です。校庭での学童クラブとひろばとの連携は出来ているらしいのですが、なかなか、中に入ってお互い何かをするのは難しい面もあるので、今後はそこを一つの課題にして声かけをしていながら新しい応援団まつりにおけるイベントに学童クラブ職員も入れることができればいかなど、今これを見ながら感じているところでございます。今後もよろしく願います。

- 座 長 ありがとうございます。委員願います。

- 委 員 さきほどお話もありましたとおり、大泉学園小で来年学童クラブが学校内にできる学校になりました。資料 1-4 で見ていただければ校内学童クラブなしの 24 校の一番下で、No.21 の大泉学園小のところで今、大泉学園地区区民館に校外学童クラブがあるという現状でやっているんですね。私の息子は、大泉学園小に在籍していて、学童クラブは大泉学園地区区民館の第二学童クラブなんですが、実は大泉学園桜小のひろばとの連携事業に参加させていただいているようです。というのは第一も第二学童クラブも学園小も桜小の子もほとんどごちゃまぜ状態の部分がありますもので、それで参加させていただいた次第なのですが、それはそれですごく楽しかったようです。立地的に桜小のほうが学園地区区民館からは近いのでそういうことになっており、なんで学園小のひろばと連携できないのかといえば圧倒的に学園小への距離の方が倍以上遠いということもあってやはり連携がしづらいということがあるんだろうなと思っております。すごく応援団のスタ

ツの皆様への研修・指導内容がすごく今充実してきているんだなということを感じておりますので、この調子でやっていただきたいなあとは思いますが、ただやはり事務局のお話でもあったように、ひろば事業があくまで学校教育の支障のない範囲でというお話であったりとか、小学校がもともと校庭や体育館が既存の利用団体（サッカーや野球、バレーボール）があったりして、そういうところで場所の確保のせめぎあいをしてしまっているというお話を聞いているとなかなか一筋縄ではいかない難しさを感じております。息子も野球クラブに所属している関係で、やはり野球クラブなども決して毎日やっているわけではない、週に1回とか2回とかしかない関係なので、逆にひろばでそれをつぶされてしまっても困るというふうに、逆の立場で考えてそう思ったりもするんですよ。そう考えると、実はこういう仕組みは小学校だけでなく、中学校や高校の校庭であったりとか、そういったところの巻き込みながらの話に残念ながらなってしまうのかなとふと考えてしまったりもしたんですね。決して小学校だけで背負ってしまうととてつもなく大変なのかなと感じたりもしました。長くなってしまうのですが、やはりいつも考えてしまうのは、ひろばと学童クラブが連携するのが一番いいことだと思いますし、分け隔てなくという言葉でくくってしまうのは簡単ですし、聞こえはいいように思うのですが、何でもそれで大人の都合で押し切ってしまうとか、見掛けがいいからいいよと思ってしまうのだけはよくないと自分の肝に銘じたいと思っています。常に子どもにとってどうしてあげることが子どもの育ちに寄与していくのかということを考えながら、このような事業を考えていくスタンスを崩したくない、してほしくない日々思っています。以上です。

○ 座 長 ありがとうございました。特に質問ではないですね？委員お願いします。

○ 委 員 今このアンケートをご説明いただいて非常に連携も行き届いてきたのかな、年々回を重ねるごとに指導員方も色々工夫をしてお互いに連携を保ってきているのかなと思いました。私どもは民営ですので、公立の方々と普段それほど深いお付き合いはないのですが、校庭開放に行ったときですか、まつりのときとか、声をかけていただいて、子どもたちが遊びに行かせていただいております。いつも開進第一小なんですけれども、学校応援団も今年の4月から実施するようですし、これからどうなっていくのかなと思っています。正直言ってうちの学童クラブでも今年非常に待機児童が多く出まして、入れなかったお子さんがとても多かったですね。特に高学年のお子さんなんかは学校応援団を保護者の方が上手に利用して、子

子どもがどういうふうに放課後を過ごしていかれるかということを考えて地域のみなさんのご協力が得られたらいいかなと思います。連携についても地区委員会、学校開放、学童クラブさんと児童館の館長さんも入っていただいて、同じ日におまつりを実施しております。そういったときも赤とんぼも声を掛けていただいて、子どもたちをつれて遊びにいったり楽しく過ごさせていただいているのですが、一つの学校の子どもですので、どこの学童クラブの子どもとか学童入っていない子とか何の違和感もなくその場で会ったら一緒に楽しくイベントを楽しんでいましたので、それはそれでよかったのではないかなと思います。以上です。

○ 座 長 色々なご苦勞の中でやっと何とかこぎつけたというところで大変だったと思います。では委員。

○ 委 員 近くの学校のことなんですが、前回もお話したと思うのですが、練馬東小学校ですが、学童クラブがまことに小さいんですね。なんとしても狭すぎて、この間も行って見たところ、20人か30人入ったら大変だろうなと思ってきてきたんですが、何とか広くお願いできないものかなと思っているんですね。No.16の練馬東小学校なんですが、春日町児童館と早宮さくら学童クラブに子ども達に分かれて行っているような状態なんですね。親御さんがお迎えに来て帰ってみえるようになりましたね最近、暗いものだから。だから何とか学童クラブに入れたいし、児童館までというと環八を渡っていかないといけないという現状なんですね。区役所もそう簡単にはいかないと思いますが、昔からある学童クラブは狭いしちょっと汚れているし、見るにみかねているんですが何とかできるものならお願いしたいなど。最近の新しくできた学童クラブは応援団との併設は大変よくできていて、高松小も見せていただきましたがすばらしい。これだったら応援団の方もゆっくり子どもたちを見てあげられるなと思いました。今の状況ですと、先ほども話が出ましたが応援団のかたの居場所もない状態のようですね。だから図書室使ったりあちこち使って面倒見ているようです。何とかできるなら早めに手を打っていただきたいなと思います。

○ 座 長 行政側の委員さんは後でよろしいですか。では、委員お願いします。

○ 委 員 学校応援団の全校設置の目途がついたということで実施日数も半数近くが週5日ということで、計画通り進んですばらしいなと感想を持ちました。ご苦勞様でございます。以上です。

- 座 長 ありがとうございます。では委員よろしいでしょうか。
- 委 員 一つ目はアンケート調査をされた価値を痛感しました。アンケート調査で分かることは一つは実態です。例えば学童クラブで資料で申し上げますと、2 ページの目印となるもの、腕章とか名札とかですね。このような実態が分かっていることがやはり安全な保護や危機管理につながっていくということが良く分かりました。二つ目は意識調査ですね。学童クラブの意識、応援団さんの意識。そこに多少の温度差もありますね。それがはっきりわかかってきたのも非常に良かったなと思います。このような実態調査・意識調査をひろくやっていただいて、その実態・意識調査から学童クラブあるいはひろば事業の相互理解がここから始まると思いました。3つ目は学童クラブの敷地の問題。同じ敷地内、異なった敷地内では学童クラブとひろばとの連携の形が違って来るなど見えました。結論は何かと言いますと地域の実情に応じた放課後の子どもの居場所づくりをしていくことが重要なんだということがこのアンケート、資料からみえてまいりました。以上です。
- 座 長 先生は、学校のホームページを積極的に活用して、積極的に応援団のひろば事業をみやすく見せていただいています。では委員お願いします。
- 委 員 練馬区 65 校の学校応援団がこの 3 月には設立されて、ひろば事業が 24 年 1 月に実施される予定ということで本当にみなさまお疲れ様でした。ありがとうございました。色々お話をお伺いさせていただいております、ひろば室が専用のものではないという実情をお伺いいたしまして、それを受けまして資料 1-2 で平成 19 年度に設立したにもかかわらず週 5 日実施できていない学校があるということは先ほどお伺いしましたけれども、小学校内既存の施設を活用することに無理があるのではないのかなと思いました。と申しますのも、私どもの学校も、現在は週 5 日実施できておりますが、来年度からは児童数の増加に伴いまして教室が一杯になるということと、再来年度特別支援学級が入られるということで、教室がどんどん足りなくなってきました。そうなってきて来年度、再来年度は大丈夫でも、その次の年がもしかしたら今ひろば室で使用しているところが普通教室に変わってしまうかもしれないということもあって、今 5 日実施できても今後どうなるのかなと不安に思うところもございます。それから一つお伺いしたいことは、今毎年 1 校ほど学校の建て直しが行われていると思うので

すけれども、今年度ですと豊玉南小学校が 3 月に改築して引渡しされるということで、そういう新設される学校というのは、ひろば室は専用の教室というものは最初から作られているものなのではないかということをお伺いしたいと思いますので後ほどよろしくをお願いします。

○ 座 長 今お答えしていただいた方がよろしいでしょうかね。お願いいたします。

○ 事務局 豊玉南小が直近で改築の終了の披露式を行ったばかりなんですが、建物の中には専用のひろば室を設けてあります。谷原小もこれから改築に入っていくですけれどもこちらも専用の部屋を設けております。改築になる場合には作ってしまいたいという意向です。

○ 座 長 ありがとうございます。これから 35 人学級がさらに進んでくるとますます教室が空かないという状況になる可能性もあるかな、そんな心配もありながらだと思います。よろしいでしょうか。委員をお願いします。

○ 委 員 まずは今年度で小学校全校で学校応援団が設立したというのはとても大きな意味のあることだなと思います。皆様お疲れ様でした。私も近隣の学校には早くやった方がいいよとよく言っていたんですよね。本当に子どもたちがのびのびと過ごせる場所、安全に過ごせる場所というのは最近ないですから、そういう意味ではこういう環境整備をやっていただいたということは、私たちも最初できるわけないと言っていたんですが、いろんな状況含めて。ところが区の方の説得に次ぐ説得、たぶん色々やっていたんだと思うんですけど、これだけ増えれば見るところもあるのでいいとは思いますが、そういう意味で最初に立ち上げるというのは大変だったと思います。問題は継続することだと思います。作るのも大変ですけれども、もっと大変なのは継続することだと思います。特に私どもも 7 年たってますので色々環境も変わり人も変わるんですね。特に連携になりますとアンケートの結果はございますが、またマニュアルもすばらしいものを作っていておりますが、やはりやるのは人なんですよね。学童クラブもそうですし、ひろばのスタッフもそうですし。始めた当初の連携やりましょうという熱い気持ちでやったころと段々人がかわってくると、打ち合わせの回数も減ったりとか、やらなくなったりとか、あるいは、うまくコミュニケーションがとれなくなったりということもあると思うんですね。その辺をきちんと継続していけるように何か学期に 1 回は打ち合わせを必ずやっていかなければいけないとか、今反省しながらそう思っています。

学童クラブさんも職員の他にスタッフの方いらっしゃるといいますし、ひろばのスタッフもそうですけど、色々な方が同じ方向に向いていけば子どもたちにとってすごくいいんですが、なかなかそうでもなくなってしまいうこともありえると思います。そういう意味ではマニュアルはあっても、みなさんのお互いの気持ちをつなげられるように話をすることが大事かなと思います。豊玉南小の場合、落成したんですけれども、ひろば室が普通教室の倍ぐらいあるんですね。そのすぐ隣に学童クラブ室があって、これも今までより倍ぐらいあるのではないんですかね。とても広がって、ということは学童クラブも人数も増えると。ひろばも広がって子どもたちが暴れるのではないかと予測しています。そうなった場合、隣同士ですからもっと密に話をしていかなければならないと考えていますが、今は引越してそれどころでなくて、4月入ってよーいどんだと思うんですけれども、お互いに人が変わっていく中で、どうやってうまく話を密にしていけるという状況をつなげていけるかということが、連携がとりあえずは始めたはいいけど尻すぼみになってしまうということではなく、きちんと継続していくポイントかなと。今継続していく難しさを感じながらやっているところです。以上です。

○ 座 長 ありがとうございます。委員お願いします。

○ 委 員 本当に 65 校応援団が設立できたということはすばらしいことだと思います。大北小も 7 番目と設立は早かったんですが、事務局にも作った後のフォローが大切だということを常にお願ひしておりました。ですから、きっと他の学校も新しくできたところは作ったのはいいけれども不安に思ったり分からないこともいっぱいあると思いますので、古い新しいにかかわらずこれからも行政にバックアップしていただきたいと思います。大泉北小のひろば室は学童クラブと同じ建物でやってきているのですが、皆さんのお話を伺っていると、恵まれているんだなとすごく感じます。連携ということでは他の委員も言われたように、時間がたつと最初の熱い想いがだんだん慣れっこになってきています。それでもやはり毎日顔見て話をするようにしていますし、学校にも協力してもらっています。先日の 1・2 年生の保護者会のときも 80 数名の子ども達が来ました。学童クラブ室が少し広がって 60 名定員です。校庭は授業で出られないし、図書室はと学校に相談したところ、先生が 20 分ぐらい早めに切り上げてもらい何とか切り抜けることができました。先ほど杉山さんが言われた野球やサッカーの団体とも 7、8 年ぐらい前から毎年年度末に、来年度どうしましょうという話し合いを学

校と応援団と団体代表を交えて毎年やっています。それは団体の方にもまず開放と言うのは地域と地域の児童の子どもが優先だということ、区からいただいた資料を毎年配って毎回話し合いをしていますので、トラブルもなく今のところスムーズにいております。

○ 座長 はい、ありがとうございます。非常にいいご意見、今回のご意見すばらしい一言みなさんにお話いただきました。ここで副座長からお願いいたします。

○ 副座長 先ほどから繰り返し出ているんですが、3月15日の田柄小を最後に全ての65校本当に大変お疲れ様でございました。資料の1-2を見ますと平成16年度の高松小を皮切りにこれだけの数の小学校の応援団を設立してきたんだと思いますと、頭の下がる重いです。お疲れ様でした。私たち父兄としましても数年前からPTA会長が顔を合わせますと、学校応援団どうなった？設立したか？と時の話題になってまして、相馬さんが時の人だとなつくづく思いました。すばらしい事業を子どもたちのために設立していただきましてありがとうございます。そういう田柄第二小学校も昨年の5月にひろば事業が始まりまして、先月2月末にはじめてひろばまつりを開催いたしました。当日子どもたちも多く、やはりすばらしい場所を作っただけで子どもたちがこんなに多く集まってくるんだなと実感しました。ただ当日校庭で地区のサッカー大会（田柄杯）が行われていました。これもまた25回という歴史のある大会なんです。当日そうしたことで校庭をひろばの子どもたちが使えなかったという事実もありまして、それは私たちとすれば、サッカークラブの子どもたちも100%田柄第二小の子どもたちでして、ひろばの子どもたちは100%田柄第二小の子どもたちで、先ほど他の委員さんからもありましたけれども、週2回取られてしまって困るという話で、つくづく感じましたけれども、どうしても65校の中で、田柄第二小はたまたまというか、事務局の方とサッカー部の部長が仲がよくて、お互い譲り合って問題もなく一つの校庭をうまく使っています。週に4から5回と開放日を拡大していくのも結構な話なんです。そうした中で一方一生懸命サッカー、野球をやっている子どもたち、ひろばが終わってからじゃないとできないとなりますと冬場は暗い時間から一生懸命始めているんですね。そうしたことも踏まえながらこれからもひろば事業をうまくするために、ぜひうまくいっている学校、問題のある学校、そうした一つの校庭をどうやったらうまく使えるのかということプランの中で色々な学校の意

見・問題点をとりあげていただいて私たちにも聞かせていただきたいと思っております。以上でございます。

○ 座 長 はい、ありがとうございました。続きまして行政側の委員さんのほうから何かございますでしょうか。お願いします。

○ 委 員 平成 16 年から立ち上げて全体で 7 年かかったんですけれども、実質この 4 年間で 55 校を立ち上げたということで、関係者の皆さん、それから職員の方の献身的な努力にあらためて感謝申し上げたいと思います。校長先生もこの期間に 2 ヶ所立ち上げた先生が 4 人いらっしゃるんですね。そういう意味では校長先生も大変がんばってくれたんだと改めてお礼を申し上げたいと思います。いずれにしても平成 23 年度 65 校が順調に運営できるかが勝負だと思っておりますので、これからもぜひ皆さんのご協力をお願いいたします。ありがとうございました。

○ 座 長 はい、もう 1 人お願いいたします。

○ 委 員 はい、遅れてきてすみませんでした。私は学童クラブの所管部長ですけれども、まず学校応援団・ひろばが全ての学校でできて、いわゆる放課後子どもプランの連携の条件がそろったということで、これからが本番と思っております。先程来、各委員からもお話がありますが、やはり各学校の施設条件ですとか、携わっていただいている方の意識ですとか、それぞれ違いがあるのかなと思っております。その中で先ほどもお話ございましたけれども、いかに活動を継続的にしていくかということが大きな課題と私どもも思っております。その辺でいい遺伝子というか、どうつないでいくのかということをいかにシステム化していくかが、これからの課題と思っております。それから私どもの方から言わせていただければ、学童クラブに入れないお子さんをどうしていくかはいまだに課題なんですね。ひろば事業との連携ですとか、様々な協働した取組の中で解消していくかは大きな課題と思っております。そういう観点も含めて、学童クラブの実際やっている事業、事業内容は色々あるんですけれども、やっていた日数とか頻度をいかに揃えていっていただけるかといったところが、これからの課題と思っております。

○ 座 長 はい、行政側の委員さんよろしいですか。はい私まだしゃべっていませんので、私からも。本当にこのひろば事業のスタートは非常にハードルが高

くて、全校なんて私も半分信用してなかったんですけれども、これだけ計画通り事業としてできたというのはすごいことだと、今さらながら、それには本当に、私のところでもスタートするときに非常に疑問があったわけです。心配と初めてのことで。PTAの方皆さんそう思ったと思いますけれども、そのときに他の委員さんのところを見に行こうよということ言ったら、委員の人柄なんでしょうね、子どものためだったらなんでもできるよ、やってみたら何とかなるんだよという気持ちが非常に私たちに安心感になりまして、いいところに見学に行ったなど、すぐに皆さんスタッフ一同というか、これから作ろうとした人たちが一気にやる気になったということも非常に大きかったかな、非常にいいモデルを作っていただいたかなと思います。特に今回長年行政側の方のきめの細かい指導・支援といたしますか、継続した懇切丁寧な指導をしていただいたということは非常に大きいかかと、普通ですと行政の人って何年か経つと人事異動でみんな変わってしまって、あれっとはしごを外されるということが多いですけれども、この事業は本当にはしごを外されるどころか、しっかりフォローさせていただいているということが非常に大きかったのかなと思います。校長先生方も、学校を使われるということは一番ハードルが高いことだったんですけれども、校長先生方の理解というか積極的に先生方がやっていただくという、そういうところは私たちも安心して何でも校長先生にお話できたのかな、人事異動で校長先生が変わっても、やはり積極的にやっていただいていることが大きかったのかなと思っています。この事業は色々な方のご努力とご支援と、色々なものの中で成り立ったのかなと思っています。継続ということですがけれども、継続も大変ですがけれども、この事業が継続プラスさらに進化を遂げていくのかなと感じます。まだまだ子どものことでは、やはり家庭状況も違ったり、この事業も別の子どもたちのニーズも高まってくるのかなと思っておりますので、さらにベースとして進化していくのかなと思っております。それには事故があるとしぼんでしまいますので、データもありますので、危機管理をしっかりとやっていければと思っております。このアンケートの中で、資料1-5の学校応援団のアンケートの中で、説明の中ではありましたけれども、できたら校内学童と校外学童とが比較できるよう示していただけるとわかりやすいかなと感じました。私からも以上で、本当にこの事業は、私の学校でも非常にやってよかったなという、どんな事業でもしまったなということが結構あったと思うんですけど、多くの学校がやってよかったなと非常に声にでておりますので、大きな力でこれからも働いていただければと思っておりますのでありがとうございます。

まだ言い足りなかった委員さんいらっしゃいますか？こんなこと言いたかったということがありましたら。

○ 委 員 言い足りなかったことは、やはり学校側の応援というのは非常に大きな比重をしめていたと私の場合は感じております。やはりこの 1 年間は本当にひろば事業の子どもたち全体に対しての校長先生の想いが非常に強く出ていまして、図書の一つにしても全て子どもたち目線でものを考えてくださっているという、そういう感じがありましてそういう意味ではよかったという、また私自身も応援団長をしていてよかったなど、お手伝いが何かできるものができたなど感じている次第です。それから学童クラブとの連携につきましても、学校の状況があると思いますので、私どもの場合は重度の障害児がいるということで、なかなか連携をするにしても難しい部分があるんですね。今私の考えているのは自然体で、校庭の中でできれば学童クラブのほうからコンタクトがあれば対応していければなという想いでもいる次第です。ですからやはり教職員の方、学童クラブの方とコミュニケーションを私自身がとりながらやっていければなと感じているところです。

○ 座 長 ありがとうございます。それでは皆さん一通り意見が出ましたので、事務局の方に困った質問もなかったと思いますので、次第に沿ってその他に進めたいと思います。事務局からその他についてお願いします。

○ 事務局 本日いただきましたご意見を参考にさせていただきながら、取り組みを進めていきたいと思っています。本当にありがとうございました。今年度の練馬区放課後子どもプラン運営委員会は本日をもって終了となります。皆様には大変お世話になりました。ありがとうございました。なお、来年度以降の委員の任期につきましても、これまで一年間でありますが、一年でいいのか二年がいいのか等につきましても、事務局で検討させていただきたいと思っています。そのうえで来年度選任させていただきたいと考えていますのでよろしくお願いたします。以上でございます。

○ 座 長 はい、本日の議事につきましては一応終了ですけれども、皆さんからここはというご意見ございますか。よろしいでしょうか。それではこれをもちまして平成 22 年度第 2 回練馬区放課後子どもプラン運営委員会を終了したいと思います。本日はありがとうございました。